

同窓会が発足して三年、役員改選、活動が二期目に入った。松橋英幸初代会長を中心とした一期二年間は、全国に散らばる同窓生の悲願であった同窓会の創設を果したうえ、同窓生名簿刊行会の設置、会報発行、学部の大学院修習課程設置の後援等々、その本格的活動の基礎を固められた。会員一同、このご労苦に感謝を申しあげる。

二期目に入った同窓会の最大の課題は、同窓会組織の充実と強化である。このことは即事業推進の原動力となるので、強力に進めたい。

教育学部同窓生は、旧制卒業者を含めると二十五、〇〇〇余名、新制度在籍者だけでも一三、〇〇〇名に達している。

現在、同窓会の入会者は、概数約五、〇〇〇名になろうとしているが、さらに一人でも多くの仲間を得る努力を重ね、物心両面から充実させ、自ら歩みつづける同窓会しなくてはならない。

同窓会が発足して三年、役員改選、活動が二期目に入った。松橋英幸初代会長を中心とした一期二年間は、全国に散らばる同窓生の悲願であった同窓会の創設を果したうえ、同窓生名簿刊行会の設置、会報発行、学部の大学院修習課程設置の後援等々、その本格的活動の基礎を固められた。会員一同、このご労苦に感謝を申しあげる。

二期目に入った同窓会の最大の課題は、同窓会組織の充実と強化である。このことは即事業推進の原動力となるので、強力に進めたい。

教育学部同窓生は、旧制卒業者を含めると二十五、〇〇〇余名、新制度在籍者だけでも一三、〇〇〇名に達している。

現在、同窓会の入会者は、概数約五、〇〇〇名になろうとしているが、さらに一人でも多くの仲間を得る努力を重ね、物心両面から充実させ、自ら歩みつづける同窓会しなくてはならない。



## 組織の拡充と大学院設置をめざして 一期目の課題

同窓会長 倉田 稔

今、教育現場で、又社会で教育そのものが多くの課題に直面している。一つ一つの課題は一学校や個人の力では、どうにも解決できない場合も多い。今こそ、同じ課題に直面し、又憂いをもつものが同じ土台に相集い、共通の意識を高め、世論にまでもり上げ論議し、解決していくなくてはならない時に来ている。そのためにも、同窓会組織の充実、強化は欠かせない。同窓会では、その具體策として、草の根的推進力になる地区組織づくりを本格的にはじめることにした。

その第一歩として、今期より県下十六郡市、高校及び県外にそれぞれ地域活動の母体となる地区組織を作り、地区を統括していただく、地区代表理事制を設け、各位をご委嘱申しあげた。同窓会未加入者の加入促進には、会員ひとり一人は勿論のこと、この地区の中心となる代表理事の方々の力添えは欠かすことができない。

もう一つの課題は、今、教育学部で進めている

# 信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報

【第4号】

発行人倉田稔  
事務局長野市西長野6ノロ  
信州大学教育学部  
教育工学センター内  
TEL (0262) 32-8106(代表)

大学院教育学研究科(修士課程)設置への後援である。言うまでもなく、大学院の設置は、さまざまな教育問題をかかえる県内外の教育現場と学部を結ぶ太いパイプとなり、教育学部が眞に地域に支えられた教員養成大学として発展するためにも欠かせないものである。このことは、教育現場は勿論、長野県民の長年の夢の実現であり、将来の教育界を支える人材養成の中核機関としての学部への期待も極めておおきい。全卒業生の力強いご支援、ご協力を心からお願いしたい。



## 緊急報告

大学院教育学研究科（修士課程）  
設置期成同盟会について

会長 倉田 稔

学部を中心に進められていた大学院設置の準備が、この度、多くの県内諸機関や各団体のご支援とご協力を得て、いよいよ本格的に始動し「信州大学大学院教育学研究科（修士課程）設置期成同盟会」が設立された。その設立総会は、新聞やテレビで報道されたように去る五月二十一日、信濃教育会館講堂において盛大に開催された。

参加団体は、長野県教育委員会、県市町村教育委員会連絡協議会、信濃教育会、県市長会、県市議会議長会、県町村会、県町村議会議長会、県市工會議所連合会、県経営者協会、県中小企業団体連合会、日本青年会議所長野ブロック協議会、県小学校長会、県中学校長会、県高等学校長会、県PTA連合会、学部尚学会、同窓会（順不同）などの二〇団体で、当日は、これら諸団体の関係者が相集い、大学院設置に向けて熱い期待が結集された。

今、教育学部では、平成三年度の大学院開設に向け、全力で諸条件の整備や準備を進めると共に関係機関へのたたきを行っているので、この期成同盟会の成立は、学部への力強い後盾となるものと期待される。

設立総会においては期成同盟会会长に吉村午良知事、副会長に太田美明信教會長、樋口太郎教育長、小林春男県経営者協会会長、夏目幸一郎商工会議所連合会長が選出された。

期成同盟会は、以上のように本格的に支援活動をはじめると、大学院設置については、今なお厳しい状況であるので、同窓会としても、より強力

に支援を進めねばならない。同窓会員の皆様におかれても、あらゆる機会をとらえ物心両面のご援助ご支援を賜るようお願いし、報告に代えたい。

## 趣意書

平成二年四月

信濃教育会会长  
信州大学教育学部  
同窓会会長  
倉田 稔

近年、科学技術の著しい進歩は、学校を取り巻く社会に激変する变化を与えると共に、戦後四十年を経てきた学校教育に大きな波紋を投げかけております。これ等の問題の解決には国をあげて、しかも新しい観点に立った教育改革の断行が求められています。このような背景の中で昭和六十二年八月七日には臨時教育審議会の最終答申が、同年十二月十八日には教育職員養成審議会答



5月21日信教で行われた大学設置期成同盟会

申「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の教育課程の改訂」が相次いで発表されました。更に、昭和六十三年十二月二十八日には、新しい時代の教育に対応するため、教育職員免許法の一部を改正する法律が成立し、ここに専修免許状の新設を含む新しい免許制度が発足しました。

これ等の教育改革や教育職員免許法の改正に伴い、各都道府県に存在する国立大学の教員養成学部等では、それぞれの地域の学校教育に対応するために、大学院教育学研究科（修士課程）の設置に向けて努力し、既に国立大学教員養成学部等の過半数にそれが設置されています。現在未設置の教員養成学部等においても平成三年度大学院設置を目指して、約二〇大学がその申請を急いでおります。

このような状況の中で教育県といわれる信州に大学院教育学研究科（修士課程）の設置を未だ見ないことは、誠に残念であります。このことは教員の人材確保の上からも、また本県出身者が他大学の大学院教育学研究科に進学する場合の経済的、時間的損失の大きさからも、本県子弟の教育に大きな損失を与えるものであります。それゆえ、県民は等しく信州大学教育学部に大学院を設置することを切望されておられる事と想います。

私たちの母校、信州大学教育学部においても、大学院の設置が話題になりはじめ以来一〇年近い年月を過ごして参りました。遅れおりました大学内の諸条件の整備も漸く整い、平成三年度の開設を目指す大学院設置の申請ができる段階に至つたと聞いております。

然し、大学院（修士課程）の設置には国の予算的な裏付けも必要であることから、毎年二・三大規模な認可されておりません。然も、信州大学教育学部内の教員組織の事情等あり、大学院設置を平成四年度に運らせることは極めて難しい事情に

あると聞いております。これ等の事情をご理解頂き、平成三年度に信州大学大学院教育学研究科（修士課程）の設置が実現できますよう、広く県民のご協力をお願い致しますと共に、標題実現を期するための期成同盟会を結成致したいので、県内多数の団体のご参加とご助力をお願い申し上げます。

第二回 總會報告

信州大学教育学部同窓会第二回総会は、平成元年八月十一日（金）長野市旭町信濃教育会館講堂において、八四名の参加者を得て開催された。開会宣言の後、松橋英幸会長の開会挨拶があり、続いて議長団の選任に移り、滝沢忠男、山森綱江の両氏が選任された。また、総会の議事録署名人に長坂忠彦、西沢和夫の両氏が選任され、書記に赤羽貞幸、杵淵恭宏の両氏が任命された。次に議事に移り、以下の六議案が審議された。

第1号議案 昭和六十三年度事業報告書、歳入・歳出計算書及び財産目録の承認について、総会資料に基づき関谷俊行幹事長から昭和六十三年度事業報告、内藤光雄会計幹事から歳入・歳出報告及び財産目録の説明がなされた後、清水厚実監事より会計監査報告があり、全員一致で原案を承認した。

第2号議案 信州大学教育学部同窓会名簿刊行  
会の設置について、久保信男幹事が資料に基づき  
説明し、全員一致で原案どおり承認した。  
第3号議案 平成元年度の事業計画書（案）お  
よび歳入・歳出予算書（案）について、幹事長及  
び会計幹事が資料に基づきそれぞれ説明した後、  
全員一致で原案を承認した。

講事終了後信  
州大学長北条舒正  
氏、医学部同窓会  
長赤羽太郎氏、教  
育学部長鈴木金弥  
氏ら各位の来賓祝  
辞をいただき閉会式  
した。



講演中の平沢彌一郎氏

(第5号議案会則八条2) 役員規定の一部改正について、幹事長より資料に基づき提案説明があり、全員一致でこれを承認した。

第6号議案 役員の改選及び名誉会長の推戴に関する件については

(1) 松橋会長より資料に基づき次期会長及び監事二名の提案があり、全員一致で原案通りこれを承認した。

(2) 新会長倉田稔氏より会長就任の受託と決意表明があり、続いて次期役員(副会長、本部理事、地区代表理事)の推薦をうけ、全員一致で原案通り承認。引き続き幹事も委嘱された。

(3) 松橋前会長より、名誉会長に鈴村学部長の推戴が諮られ、全員一致でこれを承認した。

提案説明し、さらに幹事長から南佐久郡川上村在住の先輩由井ふゆ子氏より、本日大学院設置のために多額の基金が寄せられた旨の追加報告がなされた。会員から大学院設置の見通しについての質問があり、鈴村金弥教育学部長による説明の後、全員一致で本要望書の採択を承認した。

その後、要望書は松橋会長より鈴村学部長に手渡され、学部長からは要望書の受託と今後の尽力並びに同窓会への支援依頼がなされた。また、由井氏からは激励のお言葉をいただいた。

第二期同窓会役員名簿

(平成二年八月)四年八月

監	副会	名譽会長
本部	会	長
理	事	事
事	長	長
宗信	清	松宮
光貞稀	水	林沢
雄男	厚	倉鈴
雄	安	田村
市博	実	大夫
	大	金
赤羽	丸	山
和田	滝	稔弥
飯田	口	山沢
安藤	山	忠
長坂	勇	昭忠
岡田	内	子男
	子	男
貞幸	別府	渡辺
清文	北	北
忠恒	原	沢
彦雄	深	風間
富雄	澤	よし
		紀
時桂	時桂	牧競
夫	夫	の

記念講演は、昭和十八年長野師範ご卒業の放送大学教授平沢彌一郎氏による「古典の中の人とからだ」——ダンテ神曲・地獄編から——であった。たいへん迫力のある語りで、「ダンデ交響曲」をバックにドレイが描いた地獄編の絵をスライドで写しながら、人間のからだについて永年のご研鑽の成果をご講演いただいた。

# 近況報告

〔1〕

信州大学大学院教育学研究科  
(修士課程) 設置の見通しと  
取り組み状況

学部長 鈴 村 金 弼

既に吉岡利治教授が、「同窓会報」第二号及び第三号に標題に関する適切な概説をされています。そこで、今回は平成二年四月一日現在における標題について二、三箇条書き的に要約してお知らせし、標題に関する同窓会員各位の一層のご理解とご協力を得たいと思います。

(一) 学部長としては、本学部大学院は平成三年度から発足させるのが最良と考えています。この為には、今春の概算要求で本学部の大学院設置を信州大学全体の中の高順位の要求として文部省に提出することが必要です。ところが、信州大学では、工学系大学院(博士課程)、農学系連合大学院(博士課程)、岐阜大学、静岡大学と連合)等も平成三年度設置を希望しています。それゆえ、同窓会員の皆様も、赤羽学長や中西事務局長とお話しする機会のある方は、ぜひ本学部大学院の設置についてお口添えくださいますようお願い申しあげます。

(二) 大学院設置に必要な書類を文部省に提出の時は、本年八月以来に文部省及びいわゆる設置審の審査をパスする必要があります。皆様もご存知のように既に教員免許法が改正されましたので、本当は全教科同時に大学院を設置することが望ましいのですが、教官数の不足等で社会科ほか三教科は平成

〔2〕 推薦入学の導入について

平成元年度入学試験委員長

小 倪 盛 男

同窓会のロマンを求めて

前会長 松 橋 英 幸

平成二年度大学入試から、従来の共通一次試験に代わって新しく大学入試センター試験が実施された。一方、各大学が個別に行う学力検査の実施方式は、昭和六十二年度からA日程・B日程の複数受験が可能となり、現在ではこれに加えて各大学・学部が入試を前期・後期の二回に分けて行ういわゆる分離・分割方式を導入するなど、大学入試制度は目まぐるしく変わっている。制度だけでなく、個別学力検査の内容も、共通一次試験などでは十分評価しにくい受験生の論理的思考力や個性などをみようとする小論文形式が年々増えている。更に、共通の第一次学力検査を利用しないで、高校三年間の学業成績、志望学部・教科に対する意欲、一芸に秀れた能力や個性などを重視して入学を許可する推薦入学を導入する大学も増加しつつある。

大学入試方式の改定、及び個別学力検査の内容として小論文を課したり、推薦入学を導入したりすることのねらいは、一つには受験生に複数の受験機会を与えるとともに、ややもすると知識偏重に陥りがちな従来の大学入試を改善し、受験生の思考力や個性などをより総合的・多面的に評価することにある。

本教育学部の個別学力検査も、こうした考え方立つて、平成二年度入試では、社会科と理科が小論文、技術科が小論文と直接に切換えた。平成三年度には多様化を一層進め、家庭科も小論文に、教育学科は面接のみになる。また、一部の過程・教科を除いて推薦入学も導入する。

昭和六十年九月、当時の岡宮学部長より同窓会設立の要請を受けて以来、同窓会問題研究委員会、設立準備委員会、設立発起人会を経て設立総会に漕ぎつけるまで三年の歳月を費した。ゼロから出発だったので当然資金も皆無だった。検討段階は手弁当で済ませることができても、趣意書や会報、案内通知を出すにはまとまった資金が必要となるので、有志の拠出金で賄った。同窓生の名簿作りや通知の宛名書き等すべてが手作業の労力奉仕であった。各現場で多忙な激職にある一期生のみなさんに、遠隔の地より寸暇をさしてご参集願い、献身的な奉仕をいたいたことは感謝の気持ちである。同窓会は自主的奉仕活動である。

これまでの同窓会活動は、主に奉仕活動である。気の遠くなる仕事に情熱を傾け、さまざまなかつた。よき仲間に恵まれ、同窓会設立といふ夢と情熱を共有できたことを幸せに思う。ゆっくりの楽しい五年間であった。

# 教育学部

三年度からの発足は困難と考えています。どの大学でも、発足時に全教科にわたって大学院が設置できるとは限りませんが、一教科でも多く発足できればと願っています。文部省の話では、現在二〇大学の教育学部から大学院設置の希望が出ていることですが、毎年認可されるのは二~四大学ですから、今年度は文字通り激戦が予想されます。

(三) 平成二年二月九日に文部省高等教育局大学課教育大学室に当学部の大院問題の折衝に行きましたが、その時に指摘されたことのうち同窓会員に関する深いことを一点だけ挙げれば、大学院設置後学生定員が確保できるかという点です。

現在長野県教育委員会も、大学院設置後に毎年一〇名位は現場の教師を送つてくださるご意向で申し、本学部でも夕方五時以降も大学院の授業を開講する予定ですので、勤務時間終了後も受講できるようになるでしょう。又、現在の在学生も本学部大学院への進学希望が大変高いので、設置後の学生確保には不安を感じていません。同窓会員の皆様、大学院設置後はぜひ研修や専修免許状取得のために当大学院へご進学くださいますようお願いいたします。

(四) 最後になりましたが、今日までに同窓会並びに同窓会員個人の方から本学部大学院設置の為に多額の浄財をご寄附いたしました。まことに有難く、心からお礼申し上げます。これらの浄財を大切に使わせていただき、ぜひ全国に誇れる良い大学院を設置したいと思っておりますので、今後ともご援助賜りますようお願い申しあげます。

平成三年度から推薦入学を導入する本学部の課程・教科は、国語・社会・理科・美術・保健体育・家庭・教育学科・英語・特殊教育学科で、募集人員は合わせて約三七名である。推薦入学制の実施に当たっては、大学入試センター試験を利用せず、小論文又は実技検査、及び面接などを用うることによって、教員となるためにふさわしい意欲と資質をもった学生を選択できると期待している。次に、最近における本学部の入学者総数に対する長野県出身入学者の占める割合の動向について触れておく。共通一次試験が導入されて以来、本学部の入学者総数に対する長野県出身入学者の占める割合は、八六・九〇パーセントという高率を示してきたが、複数受験が認められるようになつた昭和六十二年度では六二・八、昭和六十三年度六三・二、平成元年度五一・二、平成二年度五二・四パーセントと率が低下した。代わりに愛知県・山梨県など、隣接する中部地方の出身者の増加が目立っている。推薦入学の導入の結果が、この動向にどう影響するか注目されるところである。

## 〔3〕 きびしさを増す教職への道

平成二年年度就職委員長

藤沢謙一郎

民間の好景気とはうららに、教員志望の学生にとって、児童生徒減による教員需要の減少は、きびしい冬の到来です。

こうした中で、心配した平成元年度卒業生の就職は、教員八四・一、教員以外(公務員、企業)一〇・四、進学四・八、その他〇・七各パーセント(下表)の結果になりました。教員養成を目的とする学部にあって、二四三名が教職に就けたこ

とにほつとしております。しかし、今後の教員需要の見通しは暗く、数年後には長野県義務教育職員の需要が、学部の入学定員三二〇名を下回ることが予想され、重大な問題です。本来、就職は学生自らが切りひらくものであります。就職委員会としても事態をきびしく認識して対応していかなければなりません。

わが同窓会も創立三年目を迎え、財政的基盤も一応確立し、支部組織の足がかりもできた。懸案の大学院設置も平成三年度を目途に学部が総力を挙げて推進している。この秋には開学四十周年記念事業として卒業生名簿が同窓会によって刊行される運びとなっている。一方、残された課題も山積しているが、課題解決には教育現場の新鮮な感覚が重要である。幸いにも、倉田稔会長を中心にして現役の強力な役員に引継ぎできたことは嬉しい。今後一層のご活躍を心より期待したい。

表(一)  
平成元年度

( ) 内は臨時採用数						
課程別 男女別	就進学別	就職者		准学者	その他	合計
		教員	教員外			
小学校教員課程	男女	59(5)	4	6	4	72(5)
		67(3)	3	9	4	83(3)
中学校教員課程	男女	52	1	5	4	62
		24	2(1)	6	1	34(1)
養護学校教員養成課程	男女	9	1	1		11
		7		1		9
幼稚園教員養成課程	男女	14	2	2		18
		118(5)	6	12	8	145(5)
		112(3)	7(1)	18	6	144(4)
計	男女計	230(8)	13(1)	30	14	289(9)

### アラムナイ紹介

教育学部同窓会が発足して三年が経ちました。しかし、卒業年度や教科単位、さらには研究室ごとにこれまで活発な活動を続いているミニ同窓会が沢山あります。前号に続きその一部を紹介いたします。

### 彰 風 会

昭和十八年卒業 浅田恒恵

「彰風会」は、松本女子師範学校の同窓会として明治三十八年に発足しました。以来六〇年、活動に活動を続けてきましたが、昭和四十一年松本分校の統合に伴い彰風会も終息しました。統合当時の会長多田あや子先生は亡くなりましたが副会長の太田久枝先生をはじめ、往時を懐かしむ方々が、それ以降同窓生といふ気安さから各地に集まって、彰風会の灯を点し続けてきました。

昭和六十年には、太田久枝先生の叙勲祝賀会を同窓生が発起人となって催しました。それを機縁に新生彰風会が誕生し、現在に至つております。



樂しみの会食会

子学生だった方も助力を惜しません。新生彰風会を七月に行いましたので、七夕にちなんで年一回の総会とし、楽しく会食します。当番は廻り持ちで、会長は置きません。会員は各卒業年度に渡っていますから、当番は卒業年度別とし、お若い方がからお願いしました。構成年令は八〇才から四〇才と多岐に渡っていますが、伝統ある母校の卒業生に恥じず、集まれば誰もが若くなり、全寮制の昔を偲んで、戦中、戦後、「すべりひゆ」を食べ合った話、男子学生が廊下をドンドンと下駄で歩いた話など、話題に花が咲きますし、歌えば即座にコーラスとなつて、みんなみんな、仲々の才女に戻ります。入会その他自由です。どうぞ誰でもお申し出下さい。お待ちして居ります。県内各地で開催される彰風会との相互交流や情報交換も願っています。

### 合唱を楽しむ会

教育学部音楽科 久保信男

会長は、竹村茂（南安曇郡豊科町穂高六九七一三）。会員は、音楽科修了・一〇回卒ぐらいまでが中心メンバー。会の設立はいつとなく昭和五十年代後半。

毎年、六月初旬の土・日の一泊二日をかけて行っています。戦後復興期のピアノも少なかつた不自由な時代に、まず歌うこと・少しでもピアノが弾ける教師になることに青春をかけた仲間たちです。昭和三十年代の音楽科生は、毎夏合宿をして、北信越大学交歓会（合唱）の下ごしらえ・演奏発表会・歌劇「手古奈」の準備などもいたしましました。当時の女性の皆さん、昔よく林先生の激がとびましたね。現在、女性にあつては少しずつ子どもの手も離れ、教師の道では校長・教頭など陣頭指揮に立つ年代層となっています。私達は、当時は发声法はともかく、皆ほんとに良く歌いました。往時の男

千原勝美先生（漢文学）	昭和二十二年九月	長野師範学校女子部
斎藤豊先生（地学）	昭和二十六年八月	信州大学教育学部
宮崎正康先生（経済学）	昭和二十六年三月	定年により退職
昭和五十九年四月	信州大学教育学部	
平成二年三月	東洋英知女子学院大学転出	
シェフリ・ギブズ先生（英会話）		
昭和六十二年五月	信州大学教育学部	
平成二年三月	帰国（英國）	
親里政明先生（物理学）		
昭和三十九年ご着任	平成二年四月七日御逝去	

## 大学院のために特志寄附

昨年の総会の折、昭和七年に松本女子師範を卒業された由井ふゆ子氏から、学部大学院発足のためにと二〇万円を同窓会にご寄付いただき、鈴村金弥学部長に直接手渡されました。由井氏は、卒業後五年間教員をされた後、川上村郵便局長を長年なされた方です。厚く御礼申し上げます。



由井氏（左）学部長（右）

研究助成海外派遣学生便り  
英語科 土 岐 聰 子

この度はご援助金をいただきましてたいへんありがとうございました。これを大きな勉学の励みとさせていただきたいと思います。

この一月にテネシー州の大学からカリフォルニア州立大学フレズノ校に転校いたしました。専門の言語学では、第二言語としての英語教育という

授業を二つとっています。大学院生も多くとつている授業もあり、ほとんどの人が英語教師を目指しているので、授業もたいへん活気があります。私にとってよい刺激になる授業で、学ぶことがたくさんあって七五分の授業があつという間に終わってしまいます。この授業では、実際に英語を学んでいる人たちのクラスへ行って教育実習のよう、見学したり教えたりする演習があります。自分が英語を勉強している身なのでうまくいか心配ですが、たいへんよい経験になりそうで、今から楽しみにしています。残り少ない月日を有意義に過ごしたいと思います。



## 会議日誌抄（平成元年度）

四月二十一日	学内役員会
五月十三日	監査会
五月三十一日	学内役員会（継続審議）
六月三日	幹事会
六月十八日	一、通常総会について
十月七日	新旧合同幹事引継会
一月五日	理事会
二月二十四日	一、第三会通常総会について 二、平成元年度のまとめについて 三、幹事会

事務局内幹事の役務分担は、次のようになっています。

幹事長	閑谷俊行（学部）
副幹事長	西沢和夫（古里小）
庶務	北沢靖司（後町小）
会計	杵測恭宏（学部）
組織	横田通（学部）
報	山森綱江（大橋保育）
小金沢敏夫（川中島小）	中村浩志（学部）
西沢和夫（古里小）	豊田俊司（西部中）
中村了章（三陽中）	牧三代（松代小）

II 事務局からのお願い

同窓会費は終身会費です。県内小・中学校へは、今年も振替用紙が届きますが、二度納入されることのないようご注意下さい。既に納入済みの各位には登録ラベル貼付の上、個人宛ご案内をお届けしております。

## 事務局便り

### 1 入会状況について

同窓会が発足して早くも三年目が過ぎました。が、平成二年三月末現在の入会者数は五〇〇〇名に達しようとしています。同窓会が今後増々発展していくためには、より多くの方々に入会していただくことが何よりも必要です。まだ入会されていない身近な方々に、広く呼びかけていただくことを切にお願いします。

現在長野県内で教職をされている方で入会を希望されます方は、各学校あてに振り込み用紙がお送りしておりますので、それをご利用下さい。会費は終身会費で一万円です。それ以外の方で入会を希望されます方は、学部の同窓会事務局に電話又はハガキでご連絡下さい。振り込み用紙をお送りします。

信州大学教育  
学部同窓会

## 第三回通常総会（通知）



元東京都弁護士全会長  
篠原千広氏

記念講演終了後、犀北館において、懇親会（会費五〇〇円）を開催します。こちらへも多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

学校は成長途上にある青少年が恒常に多様な集団生活を営む場であるが、管理者、教師が如何に注意をし、万全を期そうとしても一般社会に比

### （講演要旨）

昭和三年長野県小海町生まれ、昭和二十三年長野師範学校卒業、昭和二十五年司法試験合格、昭和二十六年中央大学法学部卒業、昭和四十七年日本弁護士登録所属東京弁護士会、昭和四十七年日本弁護士連合会司法修習委員会副委員長、昭和五十六年東京弁護士会会长、昭和五十七年日本弁護士連合会副会長、昭和五十八年日本法律家協会理事、昭和六十一年法制審議会委員、昭和六十年、六十二年司法試験管理委員。

### △編集後記

編集の最終段階で、五月二十一日に行われた学部大学院の設置期成同盟会結成総会の記事を急ぎよ加えることになりました。そのため、大変あわただしい編集となりましたが、何とか予定の期日までにお届けすることができました。お忙しい中、原稿のご執筆を心よくお引き受けいただきました方々に厚くお礼申し上げます。同窓会は、発足して四年目を迎ますが、会の発展のために同窓生一人一人の和が何よりも必要と私は思います。同窓会の輪がさらに大きくなり、ますます充実発展することを祈つて編集後記といたします。

（小金沢・中村）

### 記念講演（一般公開）

### 「学校事故と法律について」 —判例を中心にして—

### プロフィル

昭和三年長野県小海町生まれ、昭和二十三年長野師範学校卒業、昭和二十五年司法試験合格、昭

日 時  
平成2年8月11日（土）  
午前9時30分～

会 場  
長野市旭町  
信濃教育会館講堂

- 次 第  
1、開会  
2、会長挨拶  
3、議長団選任

4、議事録署名人の選任並びに書記の任命

### 5、議事

- 第一号議案 平成元年度事業報告書、歳入・歳出計算書および財産目録の承認について  
第二号議案 平成2年度事業計画書（案）および歳入歳出予算書（案）の承認について  
6、来賓祝辞  
7、閉会

較して、人身事故が起る蓋然性の高い場所であるといわなければならない。だから法律的な側面からは、学校は危険性をはらんだ施設であると見られている。学校事故に関し危険責任を基調とする立法が提案される理由も此処にある。しかし、遺憾ながらこれらの提案は、まだ実現のための日程にものっていない。そこで現行法で裁かれている学校事故について類型別に裁判所の考え方を紹介し、日常の教育活動についての参考資料を提供してみたい。

### 骨子

- (1) 学校事故の法律的位置づけに関する総論的説明  
(2) 教師の教育活動中の事故と責任  
(3) 教師の生徒に対する暴行違法懲戒行為と責任  
(4) 学校の物的施設、設備の設置、管理、保存上の瑕疵と責任  
(5) 児童生徒間に生じた事故と責任  
(6) 学校事故の賠償責任者について  
(7) その他関連事項